

# Rally Mongolia

インターナショナルクロスカントリーラリー・FAコート・ラリー・モンゴリア2011

憧れの草原、モンゴルへ。そこを初めてツーリングしたときにわきあがってきたのは、学生時代に憧れたラリーへの想いだった。モンゴルの草原、砂丘で6日間の走行タイムを競う「ラリー・モンゴリア」。初めて参戦した女性ライダー、松下時子によるレポート。

Photo by SSER, Tokiko Matsushita, Text by Tokiko Matsushita

バイクが見えるかな？ 涸れ川は幾つも横切り、こんなにスケールが大きな涸れ川もえんえんと走る。爽快だよ！





増水した川は大河のようだった。写真では、まばゆいばかりの光彩だけど、流れが速く泥水で底が全く見えない



#1 ボルドバートル。残念ながら途中で会うことはないけど、カッコよく爆音と圧倒的な速さでスタートしていく

## 余すところなく姿を見せ続けてくれたゴビの大地

私は2009年の初秋。憧れだった大草原を走りたくてモンゴルツーリングに参加した。その時始めて見たモンゴルは、空も山も大地もとにかく壮大で美しく、バイクを通して感じた砂の感動は、私の中にしっかりと刻まれ、日常に戻っても、忘れることはなかった。

このことがきっかけで、学生のころに大自然を駆けるラリーに参戦してみたいと思っていた夢を、「モンゴルの舞台で叶えよう!」と、私のラリーモンゴリアが始まった。参戦マシンはセロー 250。レーサーではないが、2007年から乗り始め、たくさんの林道を共に走ってきたたっぷりの愛着あるバイクだ。

2011年8月、私はラリーモンゴリアに参加するため、いざモンゴルへ飛びたった。

スタート前日。船積みから2カ月ぶりにバッテリーをつなぎエンジン始動。こ

のラリーに4回目の参加となる池田秀仁さんに誘っていただき、ほぼ空っぽのガソリン給油をかねて、コマ図に描かれているピストと洞れ川がどういものなのか見学に行く。ラリーでは、ルートの大半が大地に刻み込まれた轍のような道で、日本の林道のように利用されなくなると消えていく道だった。この日はほかにも、荷物の仕分けや、マップ、マシンに積む荷物のセットアップなど、競技まえのラリーらしい緊張感の中、慌ただしい1日だった。

翌日、グランドスタート。ウランバートルをあとに、地平線の彼方まで広がる大平原を眺めながら、快適な幹線道路を西に向かう。約200kmの長いリエゾンのもと、スペシャルステージが始まった。ところがスタートをして10kmほどで、前方に10台ほどのバイクが止まっている。私を含め早々のミスコースだ。その後、ICO(距離計)が固まり、360度の草原の中をGPSのコンパスを頼りに走りだす。草の下に隠れる硬いコブにい

きなり弾かれたりしながら……前方に2台のバイクが走り去るのが見えると、ぼっとして追いかけた。

GPSはレースが進むにつれ、必要に迫られ使い方を覚えてきた。オンコースに復帰するときも役に立ったが、ICOが固まったときに使った“ポインターと距離の累計表示”は、とても役に立った。

2日目はゴビの懐へ一気に南下する。そして6日目まで過酷さと美しさが交錯する旅が始まった。バロンバヤンウラン砂丘は、眺めるには美しかった。始めのうちは緩やかな砂丘でスムーズに走れたが、全開で、直角に切り立つ位置から飛び降り、埋まって転倒。サラサラの砂に埋もれたバイクを起すのに、長い時間もがいた。

モンゴルの強い日差しと乾燥は凄い。気がつくときキャメルバックの3リットルの水は軽くなっていた。そして暗闇に追われるように、GPS走行でどうにかRCP(1時間の休憩と給油をおこなう場所)に辿り着く。



チンギスハーン村で車検を受ける、恵まれた体格の#6松井航さん。ラリー中何度か凄いスピードで抜かれちゃった



デューンでKTMRALLY690を軽々と操っている#27アムガラン



チェンジペダルのネジを落とし、応急処置をしながら走る。翌日のスタート前までにゴールしなければリタイヤだ



バロンバヤンウランの砂丘。このデューンに設けられたCPを探すのだけど、暑く過酷なゴビを思い知らされる



SS(競技区間)を1台ずつ1分おきにスタート。SSの走行タイム合計で順位が決まる。全力走行!



ゾーモトのオアシス。ここでシャンプーとポリ容器の水でサッパリと髪を洗ったんだ。でも乾いた空気ですぐに乾いた



スペシャルステージのスタートまで、大きなカミオンの日陰でくつろぐライダーたち



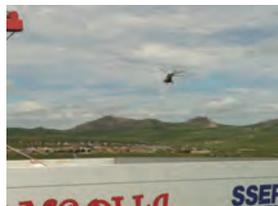
お世話になりました、SSERのみなさん、スタッフのみなさん。ありがとうございました！



スペシャルステージのスタートまで、大きなカミオンの日陰でくつろぐライダーたち



シェイクダウン後にマシンを完成して頂いた「うなぎ工房」さんに、チューブレスホイールのビートを上げるコツを教わってきた



回収したマシンを積みウランバートルへ向うオフィシャル車と、マシンの回収や救助や荷物を運ぶヘリ



写真は#16村上哲規さん！同じWR250Fでクラス優勝を果たしたのは麻生賢司さん。共に楽しんで完走すること！を目標に準備してきた、チーム「モトワークス」のメンバーです



ルートブック(コマ図)には、穴やクレパスなどの難所も告知、危険度も！！マークの3段階で表示されているから、オンルートさえ見失わなければ恐ろしくなかった



「ICO」が消えた。そこで「GPS」をトリップコンピューターに切り替え「ポイント」を表示させる、ただ距離は累計のみ



GSがないルートに設置されるRCP(ガソリン補給ができるCP)のタンクローリー。燃費のいいセローはガソリンには困らなかった



暑く喉がカラカラだったので、街を通過するときに寄ったコンビニ。ヘアピンを頼んだら常温だったので笑った



満点の星は望めなかった。だけど7日目の雨に打たれた数時間後、七色の虹と夕日が同時に空を染め上げた



8日間のラリーをこなすエントリーの荷物。着替えやシュラフ、スペアパーツなど合計30kgと決められている



ゴビ砂漠をBMW X650で、最も華麗に速く走破した池田秀仁さん。「マスターオブゴビ・アワード賞」を受賞



MOTO部門集合～！

# mongolia

## 素晴らしいルートは、エントリーへの最高のもてなし。

すでに夜を越え、仮眠して走るが途中でチェンジベダルのネジを落とし、焦った。走れないのだ。ラリーでは、翌日のスタート前までにピバークに辿り着なくてはリタイヤとなる。応急処置をしながら3日目のスタート48分前にたどり着くと、なんと、リバーススタートでこれまでの成績の逆順からスタートだった。コマ図を巻くのを手伝ってもらい、すぐにピバークを出ていく。

この日のハイライトはゴビアルタイ山系の山岳地帯を通過するもの。高原と山岳が交錯する峠道に入ると、両脇が崖の稜線を駆け抜ける。360度を見渡す夢のようなスカイトレイルの峠にバイクを止めると、そこには風が交わり、まるで空気の分水嶺だった。

4日目に、ホンゴル砂丘をリエゾンで越えたあとも砂が行く手を阻む。空気圧をグッと下げたが、深い砂のピストが何10kmも続き苦勞した。かと思えば、サンド地帯を抜けた先には、地平線の果てまで続く大地が待っていた。とにかく

く、あまりの広さのため息だ。100kmほどスロットルをひねり続けるなかで、南ゴビを象徴するラクダがいて、一瞬和んだりもした。

この日、恐竜の谷を通過するところには暗闇だった。バイクのヘッドライトに反射する岩は、まるで宝石を散りばめたようにキラキラと輝き、それは神秘的な光景だった。だが、ここからは大変だった。夜の闇に路面状況を読めずに転倒を重ね、ボロボロになり、普段ではありえない路面で転倒。それでも、やっぱり走り続けたかった。傷ついたセローとゾーモットのピバークにたどり着いたのは、夜を越えて3時だった。

結局、残念な結果になってしまった。それでも、これまでに、これほど夢中になって走ったことはなかった。日常から離れ、私とセローは夢のようなラリーを満喫した。SSもリエゾンもルートが素晴らしいかった。ウランバートルをスタートし、ゴビの懐へ南下すれば美しい風紋の砂丘、延々と続くサンド。西から北

へ進路を変えると、轍が通る壮大な谷、林のない山岳地帯、息を呑む断崖の峠道……こんなところにも道があるのかと驚き、毎日ちがう素晴らしい風景の中を夢中で走った。

エントリーにとって、素晴らしいルートと言うのは、本当に最高のもてなしだった。そして、スポーツマンシップに富んだ仲間たちに出会い、困っていると進んで助けてくれたモンゴルの人たちの優しさにもふれたこと。そんなラリーができたことに、たくさんの人たちに感謝している。

### 2012年のラリーモンゴリアへ

2012年は、ゴビのさらに奥深く、闘いのステージが広がる模様。すでに2012年のエントリー受付は始まっている。そしてラリーモンゴリアに初参加の人は、5月の連休に四国で開催される、SSER主催によるTBI(ツールドブルーアイランド)2012のエントリー費が免

除になる特典がついている。

私もこの特典で、ダート約500kmを含む2000kmを6日間で駆け抜け、知らなかったラリーを体験でき、シェイクダウンもできて本当によかったと思う。

主催者からの、「とにかくラリーに慣れよう！」というこの特典は、ラリーが初心者でも、ラリーモンゴリアへ行く夢を叶える、とても嬉しいプレゼントだと思う！



松下時子(まつした・ときこ) ガルルで「Enjoy林道ツーリング」を連載しているオフロードライダー。ヤマハ・セロー250でラリー・モンゴリアに2011年初挑戦